

第2節 環境情報の収集・提供

1 科学的調査研究と技術開発の推進

(1) 環境分野の調査研究

県では、衛生環境研究センターを中心として、大気汚染や水質汚濁等について、監視・調査等を行うほか、他の公設試験研究機関と協力して環境分野の

調査研究を進めています。環境分野の調査研究は、対象となる範囲が広く、また短期間では成果を出にくいことから長期的な視点で行う必要があります。

表 6-2-1 環境分野の調査研究

①衛生環境研究センター【環境政策課】 大気や河川・湖沼・海域および地下水等の環境汚染の発生や拡大を防止するための測定や調査研究、環境関連技術の開発	
○微小粒子状物質（PM _{2.5} ）の発生源に関する調査 【令和元年～5年度】	PM _{2.5} の成分分析を実施し、PM _{2.5} に対する越境大気汚染やバイオマス燃焼の影響について調査を行い、県内における発生源別のPM _{2.5} 対策に役立てます。
○福井県の湖沼における有機物の新たな指標による評価と浄化に関する研究 【平成30～令和2年度】	全有機炭素量を新たな指標として活用し、流域ごとに有機物の特性などを解明するとともに、有機物の浄化について分解試験なども行い、水質改善や水産資源の保護などに役立てます。
○福井県におけるリン酸エステル系難燃剤の実態把握と処理技術に関する研究 【平成29～令和元年度】	環境や健康への影響が懸念されるリン酸エステル系難燃剤について、水環境中の濃度を把握するとともに有効な排水処理技術を明らかにします。
○最終処分場ならびに不法投棄地における迅速対応調査方法の構築に関する研究 【平成29～令和元年度】	不適正処分場や災害等に伴う堆積廃棄物など異常時に、国立環境研究所と地方環境研究所が有する知見などを統合化して、迅速に対応できる調査手法を構築します。
②工業技術センター【産業技術課】 県内産業の活性化に向けた様々な分野の研究開発、環境関連技術の開発、環境負荷の少ない雪対策技術や自然との共生に対応した建設技術の研究開発	
○リサイクル炭素繊維不織布の物性向上に関する研究 【平成29～令和元年度】	リサイクル炭素繊維と熱可塑性繊維を混合し、物性に優れた複合材料化ができる不織布を開発します。
○赤外線LEDを活用した路面凍結監視装置の開発 【平成29～令和元年度】	赤外線LED投光器を用いた冬期の円滑な道路交通を確保するため、廉価なセンサ機能付き路面凍結監視装置を開発します。
○眼鏡枠の加工技術を活用した高効率モータ用コイル成形技術の開発 【平成30～令和2年度】	眼鏡枠の曲げ加工技術を活用した省エネモータを製造するためのコイルの加工機を開発します。

◆第2部 分野別施策の実施状況

③農業試験場【園芸振興課】

農薬や化学肥料の使用量を抑え、再生可能エネルギーを活用した環境にやさしい農産物の生産・供給のための研究開発

○いちほまれの高食味・有機栽培技術の開発
【平成30年度～令和2年度】

水稻「いちほまれ」の高付加価値化と生産コスト削減を進めるため、化学肥料や除草剤を使わず、米ぬかなど地域で入手できる有機質資材や除草機を用いる栽培技術を開発します。

○アレンジマムの大規模園芸の高品質周年栽培技術
【平成29年度～令和元年度】

施設費が安価な園芸ハウスで栽培でき、国内需要が高まっているアレンジマムについて、冷暖房費を削減できる地中熱利用システムを使った周年栽培技術を開発します。

○大規模園芸の新作型確立およびハウス環境制御の自動化技術の開発
【平成30年度～令和2年度】

水の気化熱（気化冷却）を利用した装置による施設内の気温降下技術を用いて、大規模園芸施設でのトマト・キュウリの新作型（夏越し周年栽培技術）を確立します。

④若狭湾エネルギー研究センター【電源地域振興課】

水素製造技術等に関する調査研究

○水素製造等に関する新技術・システムの調査研究
【平成28年度～令和2年度】

若狭湾エネルギー研究センターが培ってきた、材料改質や太陽エネルギーの利用に関する知見・技術を用いて、環境に対する負荷が低い水素の製造や取扱いに関する先進技術の調査研究を行います。

(2) 産学官による研究開発支援【電源地域振興課、産業技術課】

県では、嶺南企業等が、原子力・エネルギー分野をはじめ、地域産業の活性化や環境、植物工場・大規模園芸、防災分野に関連して新たに取り組む研究開発を支援しています（公益財団法人若狭湾エネルギー研究センターの「嶺南地域新産業創出モデル事業」による支援）。

○嶺南地域新産業創出モデル事業補助金

- ・ 土壌に含まれる自然由来の重金属（有害イオン等）を廃水から除去する吸着シートの開発
【平成 28 年度～ 29 年度】
- ・ 多機能な大気腐食モニタリング微小電流計測記録装置の開発
【平成 29 年度】
- ・ 自動洗浄機能を付加した安価な新型雨水貯留タンクの開発
【平成 29 年度～ 30 年度】
- ・ 省エネ性・安全性を高めた植物工場培養液の殺菌機開発
【平成 30 年度】

また、県内外の企業、大学、県が参画する研究開発および事業化を支援しています。

○ベンチャー企業等による新エネルギー技術革新支援事業【NEDO】

- ・ 地中熱を利用する低コスト冷暖房システムの開発
【平成 29 年度】
- ・ 地中熱を利用する低コスト冷暖房システムの事業化に向けた実証試験
【平成 30 年度～令和 2 年度】

○戦略的省エネルギー技術革新プログラム

【NEDO】

- ・ 自動車搭載炭素繊維複合材料用高速硬化プリプレグの実用化開発
【平成 30 年度～令和 2 年度】

(3) 環境関連産業に対する支援【産業政策課、企業誘致課、産業技術課】

県では、融資および補助などにより、環境関連ビジネス分野への新規参入や事業拡大に向けた取組みに対して、支援しています。

また、産業支援機関等と連携し、技術開発や経営支援施策等に関する情報提供や相談・助言などを行っています。

表 6-2-2 環境関連産業に対する主な支援制度

支 援 制 度	問い合わせ先
○企業立地促進補助金・企業立地促進資金融資 製造業、本社機能等を対象として、県や市町の誘致企業で、投下固定資産額や新規雇用者数等について一定の要件を充足する場合に、補助や融資を行っています。	県企業誘致課 企業立地グループ 電話 0776-20-0375
○専門家派遣事業 省エネルギーやコストダウンなど中小企業の様々な経営課題を解決するため、専門家を派遣し、診断等を行います。 派遣費用の 2 分の 1 を負担いただきます（派遣費用の 2 分の 1 は支援センターが負担）。	公益財団法人 ふくい産業支援センター ふるさと産業育成部 電話 0776-67-7400
○将来のふくいを牽引する技術開発支援事業補助金 この補助金は、県内中小企業が、大学・公設試等や企業、金融機関と連携して行う技術開発等を支援し、県内ものづくり企業等の技術力の底上げや新産業の創出を図ることを目的とします。 【対象事業】 地域経済牽引型：地域経済に大きな波及効果が見込める研究開発等 小規模技術開発支援型：企業の優位技術の早期事業化に資する研究開発等 【対象企業】 県内中小企業または県内中小企業を代表とする企業グループ（地域経済牽引型は、大企業を加えることが要件）で、ふくいオープンイノベーション推進機構の設置目的、事業に賛同するもの 【事業期間】 地域経済牽引型：2 年以内、小規模技術開発支援型：1 年 【補助率】 2／3 以内 【補助限度額】 地域経済牽引型 3,000 万円／件（1 年目 2,000 万円、2 年目 1,000 万円） 小規模技術開発支援型 500 万円／件（1 年） 【補助対象経費】 消耗品費、機械装置費等の他、直接人件費、販路開拓費	県産業技術課 電話 0776-20-0374

◆第2部 分野別施策の実施状況

(4) 県民・団体・企業等との連携の強化【環境政策課】

①環境ふくい推進協議会

環境保全活動を推進していくためには、県民、団体、事業者、行政がお互いに協力し合い、取り組んでいくことが重要です。

このため、県では、県民、団体、企業で構成する環境保全ネットワーク「環境ふくい推進協議会」の運営を支援し、情報紙の発行やシンポジウムの開催などを通じ、環境保全に関する意識の啓発を図ってきました。

環境ふくい推進協議会は、県民が一体となって進める環境保全に関する県民運動を実践することを目的として、平成6年10月に設立された団体です。協議会では、環境保全活動の輪を広げるための様々な事業を展開しています。

環境ふくい推進協議会会員数（令和元年12月末現在）

企業会員	222 社
団体会員	115 団体
個人会員	1,011 人

また、環境ふくい推進協議会では、県内における企業、団体、行政等の環境に関する活動や情報の共有を図るため、専用のホームページを開設しています。このページでは、各主体が環境に関するイベント情報やお知らせを自由に掲載、閲覧することができ、情報共有の場として活用しています。

表 6-2-3 環境ふくい推進協議会の主な取組み

主な取組み	令和元年度
環境保全活動促進協働事業	1 協議会会長表彰 2 ふくいまるごと環境学び舎 3 環境マネジメント推進事業 4 市町環境連携事業 5 こどもエコクラブ活動促進事業 6 SATOYAMA 国内ネットワーク推進 7 専門家による団体サポート事業
普及広報事業	1 情報誌発行事業「みんなのかんきょう」 2 ホームページによる普及広報 3 メールマガジンの配信による普及広報 4 「ふくいっ子に体験して欲しい50の自然体験」普及広報 5 各市町環境フェアにおける普及啓発
県補助事業	1 環境アドバイザー派遣事業 2 ものを大切にする社会づくり事業 3 「LOVE・アース・ふくい」強化事業 4 ふるさと環境フェア開催事業
団体助成事業	環境ふくい未来創造事業



(URL <http://www.kankyofukui.jp/>)

図 6-2-4 環境ふくい推進協議会ホームページ画面

(5) 環境に関する表彰

県では、地域で様々な環境活動を行っている個人や団体の努力に報いるため、また、今後の活動の励みとしていただくため、積極的に各種表彰制度に推薦しています。また、応募形式による表彰制度につ

いても、対象者等に情報提供などを行っています。

平成 30 年度において表彰を受けた個人や団体等は、表 6-2-5 のとおりです。

表 6-2-5 環境に関して表彰を受けた個人・団体・企業・学校（平成 30 年度）

表 彰 名	目 的 等	表 彰 者	被 表 彰 者
環境美化教育優良校等表彰	環境美化に独創的、熱心に取り組み、食品容器の散乱防止やリサイクルの実践教育に優秀な成果のあった小中学校を表彰	公益社団法人食品容器環境美化協会会長	【優良校・協会会長賞】 敦賀市立杵見小学校（敦賀市）
環境ふくい推進協議会会長表彰	環境保全活動に関し、地道にたゆまぬ努力を続けている個人、団体、学校、企業で、その活動が賞賛に値する者を表彰	環境ふくい推進協議会会長	【個人の部】 北野 禎輝（福井市） 永井 茂樹（福井市） 阪本 周一（坂井市） 田嶋 哲雄（坂井市） 【団体の部】 清水北地区里山の会（福井市） 特定非営利活動法人 ドラゴンリバー協会（福井市） あわらの自然を愛する会（あわら市） 特定非営利活動法人 世界に誇るラムサール湿地 三方五湖を育む会（若狭町） 【学校の部】 敦賀気比高等学校附属中学校（敦賀市） 大野市有終南小学校（大野市） 【企業の部】 小浜信用金庫（小浜市）
第 17 回ざぶん賞	生命の源である、水に関係した内容の作文・童話・詩・手紙を小中学生から募集し、すぐれた作品について表彰	ざぶん賞実行委員会 会長	【ざぶん大賞】 下村 千紘（坂井市立平章小学校） 【福井県知事賞】 上野 美月姫（坂井市立春江小学校）
愛鳥週間用ポスター 原画コンクール表彰	ポスターの制作過程を通じて野生鳥類についての保護思想を高めるとともに、愛鳥週間の普及啓発を図るため優秀作品を表彰	福井県知事	【知事賞】 高石 悠人（大野市有終東小学校） 山内 香穂（越前市武生第一中学校）
全国野生生物保護実績発表大会	学校・団体などにおいて、児童・生徒が中心となって行っている野生生物保護活動の状況と実績を発表するための大会	公益財団法人日本鳥類保護連盟会長	【環境大臣賞】 小浜市立国富小学校（小浜市）

2 環境情報の整備と提供【環境政策課】

県民や事業者の環境への関心を高め、環境への負荷の低減に向けた取組みを促進していくためには、環境に関する幅広い情報をわかりやすく、迅速に提供することが重要です。県では、インターネットや情報紙など様々な媒体を通じて、環境情報を提供しています。

このシステムは、大気や水質等の環境状況や自然環境等の情報をデータベース化し、地図や表などによりビジュアルに表示するもので、インターネットのホームページ「みどりネット」から利用できます。

みどりネットのアクセス件数（ページビュー）は、次のとおりです。

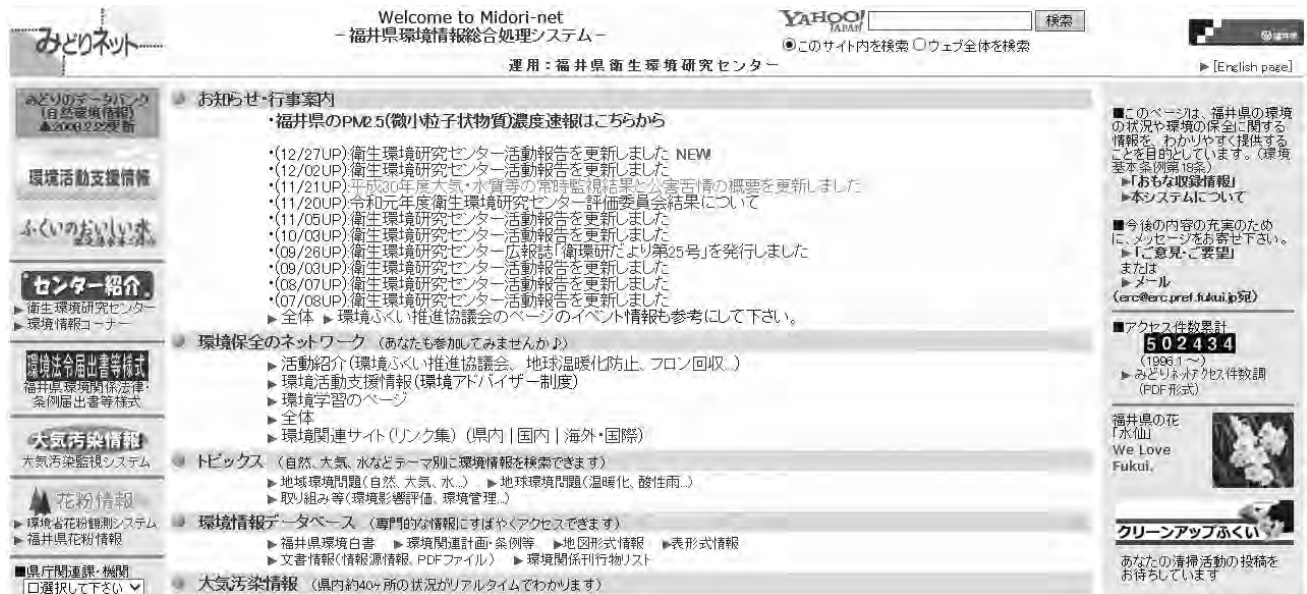
表 6-2-6 みどりネットのアクセス件数

	28 年度	29 年度	30 年度
アクセス件数	4,272,915	3,509,564	3,650,506

(1) 「みどりネット」の整備、運用

県では、各種の環境情報をデータベース化し、行政内部での活用にとどまらず、広く県民に提供する「環境情報総合処理システム」を平成 12 年 3 月に整備しました。

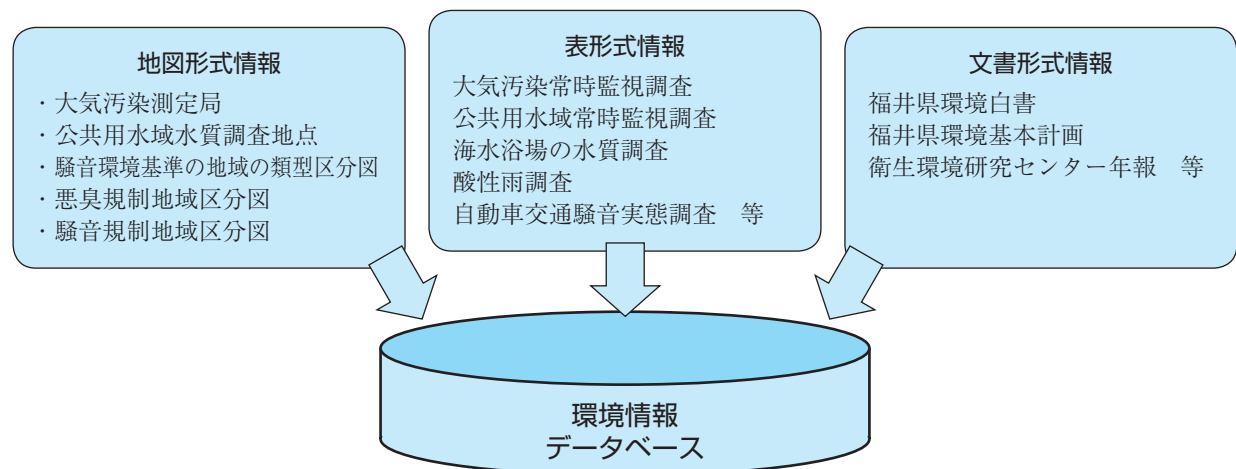
◆第2部 分野別施策の実施状況



(URL <http://www.erc.pref.fukui.jp/>)

図 6-2-7 環境情報総合処理システム（みどりネット）画面

1 環境情報のデータベース化



2 環境情報のビジュアル化

データベース化された多様な情報を、地図や表等によりビジュアルに表示します。



図 6-2-8 環境情報総合処理システムの概要

(2) 環境月間中のイベント情報提供【環境政策課】

環境基本法に定められた6月5日の「環境の日」を中心とする6月の1か月間は、「環境月間」とされています。県においても、県民の環境問題への関心と理解を深め、環境の保全に関する活動を行う機

会とするため、6月を中心に様々な行事を実施するとともに、環境に関する行事を取りまとめ、ホームページ等で紹介しています。

表 6-2-9 令和元年度「環境月間」の主な実施行事 テーマ「県民の手で守り育てる福井の環境」

【県民参加行事】

行 事 名	実施主体(所管)	内 容	実 施 日	実 施 場 所
カー・セーブデーの実施	交通まちづくり課	公共交通機関や自転車の利用促進とCO ₂ (二酸化炭素)の排出量削減のため、過度な車の利用を抑えるカー・セーブデーを実施する。	毎週金曜日	県内全域
クールビズの実施	環境政策課	冷房時室温 28℃設定と軽装(ノー上着、ノーネクタイ)勤務を実施する。	5月1日(水)～9月30日(月)	県、市町、賛同事業所
クリーンアップふくい大作戦	県、市町、環境ふくい推進協議会、(社)あすの福井県を創る協会等	統一行動期間に居住地や工場・事業場周辺等において清掃、草刈、植栽、花だんづくりを行うなど、県民、各種団体、行政が一体となって美化活動を実施する。	統一行動期間 6月2日(日)～6月9日(日) (季節ごとに年4回実施)	県内全域
第9回みどりと花の県民運動大会	緑と花の県民運動推進委員会	第60回全国植樹祭を契機に展開している「緑と花の県民運動」を推進するため、「みどりと花の県民運動大会」を実施。これに合わせ、緑と花に関する功労者の表彰や、緑や花に親しむ様々な体験型イベントを実施する。	6月1日(土) 6月2日(日)	総合グリーンセンター 福井総合植物園プラントピア
花のまちづくり研修	総合グリーンセンター	花にあふれたまちをつくるため、花を育てるために知っておきたい知識や技術を学べる講座を開催する。	6月の土・日曜日	総合グリーンセンター パレア若狭
花のスクールステイ	総合グリーンセンター	花と緑にあふれるふるさとづくり活動として、小中学校等で子ども達が種から花苗を育てる。	5月中旬～7月中旬	県内小中学校等
環境科学体験教室	衛生環境研究センター	環境科学に関する実験や体験を通して、環境に関する意識の向上を図る。	6月8日(土)	エンゼルランドふくい

◆第2部 分野別施策の実施状況

行 事 名	実施主体(所管)	内 容	実 施 日	実 施 場 所
週末天体観望会	自然保護センター	天体観望や星座の学習を通して、自然環境についての理解を深める。	6月毎週土曜日	自然保護センター
四季の自然観察シリーズ	自然保護センター	当センター周辺での観察会を通して、自然環境についての理解を深める。	6月毎週日曜日	自然保護センター
池ヶ原湿原ガイド	自然保護センター	嶺北随一の湿原植物の宝庫である池ヶ原湿原において、湿原の生物や歴史についてガイドを行う。	6月毎週土曜日	勝山市平泉寺町 池ヶ原湿原
里山観察ウォーク 初夏の香りの法 恩寺山～中ノ平 避難小屋周辺で ハイキング	自然保護センター	中ノ平避難小屋周辺を中心に季節の植物を観察しながら環境保全への理解を深め、自然再生活動へのきっかけづくりを目的とする。	6月8日(土)	法恩寺山周辺
みんなで環境美化！海域公園ク リーンアップ	海浜自然センター	三方海域公園の清掃活動を通して海の環境保全意識高揚を図るための講座を実施する。	6月15日(土)	食見海岸
海のふれあい教室	海浜自然センター	食見海岸の磯場で生きものの種類や数、大きさなどを観察する講座を実施する。	6月8日(土) 6月9日(日)	食見海岸
スノーケリング 指導者養成講座	海浜自然センター	スノーケリング指導の基礎および自然観察のポイントを学ぶ講座を実施する。	6月22日(土) 6月29日(土) 6月30日(日)	食見海岸

【普及啓発事業】

行 事 名	実施主体(所管)	内 容	実 施 日	実 施 場 所
広報活動	福井県	新聞、テレビ、ラジオ、広報誌等で環境月間の趣旨や、環境美化・保全に対するPRを実施。	環境月間中	県内全域
環境意識啓発 パネル展	環境政策課	環境問題に関するパネル等を展示し、意識の高揚、啓発を行う。	6月3日(月)～ 6月6日(木)	県庁中央ホール
	福井健康福祉センター		環境月間中	福井健康福祉センター
環境保全の調査 研究紹介パネル 展示	衛生環境研究センター	衛生環境研究センターにおける環境保全の調査研究を紹介するポスター、パネルを展示し、環境保全に関する取組みの周知、意識の高揚、啓発を図る。	6月8日(土)	エンゼルランドふくい

【監視・指導強化】

行 事 名	実施主体(所管)	内 容	実 施 日	実 施 場 所
環境 パトロール	環境政策課 各健康福祉センター	ばい煙発生施設、特定施設等を設置する工場・事業場の立入検査を行う。	環境月間中	県内全域
	循環社会推進課 各健康福祉センター	工場・事業場、廃棄物処理施設、道路、河川、海岸等のパトロールを実施する。	年間	県内全域
	自然環境課	自然公園内およびその周辺の違法行為等の監視を行う。	環境月間中	国立公園・国定公園・県立自然公園
スカイ パトロール	循環社会推進課 県警本部生活環境課	県警ヘリ「くずりゅう」による空から廃棄物の不法投棄等発見のための監視パトロールを実施する。	6月4日(火) 9月4日(水)	県内全域
環境犯罪取締り	県警本部生活環境課 県下各警察署	廃棄物の不法投棄、野外焼却事犯等の環境事犯の取締りを実施する。	年間	県内全域
合同路上検査	循環社会推進課	滋賀県と合同による産廃積載車両の路上検査を実施する。	6月13日(木) 10月28日(月)	福井県、滋賀県
		石川県と合同による産廃積載車両の路上検査を実施する。	7月30日(火)	福井県、石川県
		岐阜県と合同による産廃積載車両の路上検査を実施する。	11月12日(火)	福井県、岐阜県
		福井県税事務所と合同による産廃積載車両の路上検査を実施する。	7月17日(水) 10月16日(水)	福井県

◆第2部 分野別施策の実施状況

(3) 刊行物

【環境政策課、循環社会推進課、自然環境課】

水、大気、自然、廃棄物等の様々な環境の課題や、県の取組み等について、情報紙やパンフレット等の刊行物の作成・配布を行い、環境に関する情報を提

供しています。また、これら刊行物の一部は、県や環境ふくい推進協議会のホームページ、みどりネットにも掲載しています。

表 6-2-10 平成 30 年度 環境関連刊行物

刊行物の名称	発行状況	頁 数	発行部数	備 考
みんなのかんきょう	年 1 回 71 号	20	3,000	環境ふくい推進協議会情報誌
平成 30 年度版 環境白書	年 1 回	152	700	
平成 30 年度版 環境白書（資料編）	年 1 回	114	200	
平成 29 年度 公共用水域および地下水の水質の測定結果報告書	年 1 回	106	150	
平成 31 年度 公共用水域および地下水の水質の測定に関する計画	年 1 回	52	150	
福井県認定リサイクル製品パンフレット	年 1 回	16	1,900	
平成 29 年度衛生環境研究センター年報	年 1 回	115	225	
衛環研だより第 23 号、第 24 号	年 2 回	4	Web 配信	
平成 30 年度福井県鳥獣保護区等位置図	年刊	図 1 枚	2,400	
ナチュラリスト	年 3 回 84～86号	84 号：12 85 号：12 86 号：20	2,000 2,000 2,000	自然保護普及啓発誌
福井県自然保護センター研究報告 「キコニア第 22 巻」	年 1 回	47	550	
平成 29 年度年報（福井県自然保護センター）	年 1 回	45	600	福井県自然保護センター事業概要
海遊（活動の記録）第 19 号	年 1 回	42	HPで公開	福井県海浜自然センター事業概要
自然保護センター・海浜自然センター行事案内	年 1 回	2	14,000	
自然保護センター・海浜自然センター行事案内（カレンダー）	年 1 回	1 枚	2,500	
自然保護センターリーフレット	随時	2	1,000	
天体観測ガイド「秋」	随時	4	1,000	
福井県里山里海湖研究所リーフレット	随時	7	500	
福井県里山里海湖研究所年報 2018	年 1 回	65	610	福井県里山里海湖研究所事業概要
福井ふるさと学びの森 紹介パンフレット	年 1 回	14	2,000	
生きもので感じる福井の季節 2019	年 1 回	7	5,000	福井の生きもの歳時記体感事業紹介パンフレット
里山里海湖ブックレット「三方五湖のシジミ」	随時	62	500	
奇跡の湖 水月湖年稿	随時	11	12,500	
年稿博物館 広報パンフレット	随時	4	10,000	
歴史の物差し 水月湖の年稿	随時	20	7,500	